在名古屋ミャンマー連邦共和国名誉領事

西村 壽凰氏に聞く

ミャンマー総選挙の在外投票実現を機にミャンマーとの関係をより強く緊密に

西村　壽凰（利夫・にしむら　としお）
有限会社 CBC 自動車学校取締役会長。株式会社 WES-VI 代表取締役社長。在名古屋ミャンマー連邦共和国名誉領事館名誉領事。尾張中央ロータリークラブガバナー補佐エレクト、会長エレクト。秋篠宮殿下の家畜資源研究会名古屋地区世話人など。

5 年に 1 回のミャンマー総選挙は 11 月 8 日に実施された。10 月 10、11 日に名古屋市西区のＣＢＣ自動車学校で初の在外投票が行われ、話題を呼んだ。在外投票は大使館などで行われるが、名古屋市内で 3 年前に設置された在名古屋ミャンマー名誉領事館と昨年 11 月に設立された日本名古屋ミャンマー友好協会の働きかけで実現した。同自動車学校会長で、同友好協会代表理事、在名古屋ミャンマー連邦共和国名誉領事、西村壽凰さんにそのいきさつなどを聞いた。

――名誉領事になった経緯は？

西村　３年前にミャンマーの名誉領事をやってほしいと言われ、両国の絆の強化に貢献できるならと思い、お引き受けしました。名誉領事就任後は毎年４、５回ミャンマーに訪問しています。今年はコロナ禍ということもあり、１回の訪問にとどまっています。行く度に９～１２省庁を回り大臣や副大臣と話をします。

――どんなことを行うのですか。

西村　各省庁の要望などを聞きます。それを日本の政治家に伝えたり、民間でできることは民間で行うようにします。最近ではミャンマー政府に、世界遺産のバガン遺跡のＰＲ動画を撮ってほしいと頼まれ、ドローンで撮影しました。これは現地で広報に活用されています。さらに、私と家内で、ミャンマーで初めて世界遺産に登録された山間地のピエに小学校やトイレ、水の浄化装置を寄付しました。昨年７月に行われた開校式では街を挙げて喜んでくれました。ミャンマーの漆工芸は装飾品が中心で、日本のように食器などには使えません。そこで漆の名産地・石川県輪島に駐日ミャンマー大使らを招待し、日本の技術を学べるよう橋渡しをしました。また、名古屋では大使、公使も参加したミャンマーの投資セミナーや観光セミナーを開催しました。毎年１月４日の独立記念日には、アウン・サン・スー・チー国家最高顧問の公邸の行事にも招待され、要人の方々と歓談させていただきます。

――友好協会について教えてください。

西村　在日ミャンマー人は約３万２０００人で愛知県内には１８３８人います。東京に次いで多いのですが、ミャンマー人は他国と違いコミュニティーがあまり形成されていません。歴